

生徒が主体的にコミュニケーション能力を高めようとする授業の創造（1年次）

一領域統合型の授業設計と学びへ向かう評価の在り方
大栢 真琴（京都市総合教育センター研究課 研究員）

世界の急速なグローバル化を受け、生涯にわたりコミュニケーションツールとしての「使える英語」の獲得を目指して、日本の英語教育は大きな変化を求められている。コミュニケーション能力育成のためには、生徒が英語によるコミュニケーションに自信と喜びをもち、よりよいコミュニケーションを目指して積極的に次のステップへ向かえる学びを授業の中で展開する必要があると考える。そこで、領域統合型の授業を通して、生徒自身が学習に見通しをもち、自身の目標設定や振り返りを重ねながら自分の伸びを確認できるような、主体的に学びへ向かう姿の育成を目指して研究を進めた。

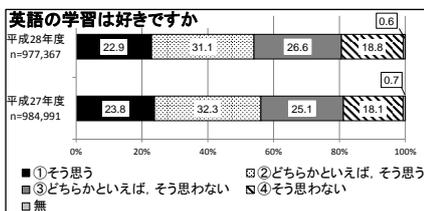
第1章 英語教育の現状・課題

第1節 学習指導要領より

新学習指導要領解説では英語教育における諸課題が指摘されるとともに、「授業は英語で行う」方針が示されるなど、英語教育に大きな方向転換がもたらされる。また、生徒が主体的な学びへ向かうためにコミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定する必要性についても述べられている。

第2節 英語学習に対する生徒の捉え

文部科学省が行った平成28年度英語教育改善の



ための英語力調査において、約二人に一人は英語学習に対する意欲が低いことが明らかになった（図1）。生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、具体的な目標を設定し、生徒の学ぶ意欲の向上を図る必要がある。

第3節 授業の実際

文部科学省が行った平成28年度英語教育実施状況調査より、授業における生徒の言語活動時間は年々上昇傾向にあるが、その活動内容については複数領域を統合した言語活動や、自由度の高い解答を求めたり即興的に話したりする活動が十分ではないことがわかった。今後は、聞いたり読んだりしたことについて自分の考えを伝えるなどの複数領域を統合した言語活動の充実が求められている。

第2章 研究の構想

第1節 本研究について

図2は本研究の全体像である。「聞いたり読んだりして理解したことを、自分の言葉で相手に分かりやすく表現し、相手意識をもって伝え合う」という、

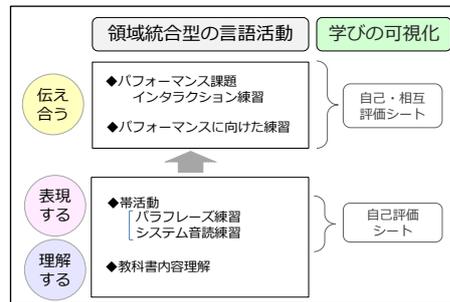


図2 研究の全体像

双方向のコミュニケーションに焦点をあてた領域統合型の言語活動を取り入れた授業を展開する。

また、その授業に則して生徒に学びの可視化を促す。生徒の学習意欲を促す形成的評価に着目し、自己評価と相互評価を通して、生徒自身が自分の今の到達状況を把握するとともに、次の学びへの課題をはっきりさせることができるような工夫と、その伸びを生徒と指導者が共有・評価することが、コミュニケーション能力を主体的に高めようとする生徒の育成につながると考える。

第2節 領域統合型授業の構築

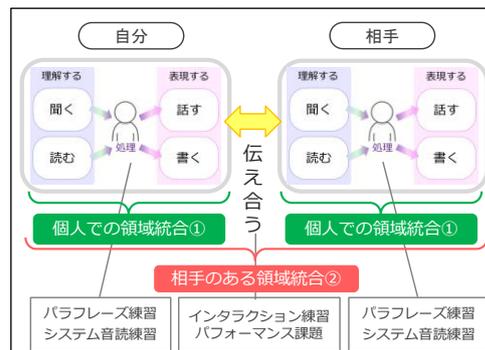


図3 領域をつなぐ言語活動の関連図

図3はそれぞれの領域をつなぐ言語活動の関連図である。より実際のコミュニケーションに近い場を設定するため、複数の領域を有機的に関連付ける言語活動を取り入れた授業を設計した。

さらに、その領域をつなぐ次の三つの帯活動を授業に組み込む。

① パラフレーズ練習：聞いたり読んだりしてインプットしたことをそのままアウトプットするだけ

ではなく、相手にわかりやすく伝わるように、自分の言葉で言い換えたり簡潔に伝えたりするスキルを育成する。

② システム化された音読練習：教科書の音読練習を、音読を目的とするのではなく、教科書の表現を自分のものとし、アウトプットにつなげるためのものと捉え、「読む」→「覚える」→「表現する」ための練習へと、音読練習をシステム化する。

③ インタラクティブ練習：生徒同士のコミュニケーションを活性化させるために、相手の発話を「受け→ふくらませ→返す」インタラクティブ（やり取り）を充実させるためのスキルを育成する。

第3節 学びへ向かう評価

本研究における学びへ向かう評価とは、生徒自身が自分の学びを把握する側面と、指導者がその学びの過程を共有し、認めたり励ましたりする側面の二つからなる形成的評価である。英語学習、とりわけ英語でのコミュニケーションへの意欲を高める手立てとして自己評価をすることは、以前の自分に比べてどのくらい伸びたかを知り、次のステップへ自信をもって進むために必要だと考える。

第3章 授業実践から

実践協力校において、Unit 5「Universal Design」(New Horizon English Course 2 (東京書籍))で授業実践を行った。

第1節 逆引き設計の単元構想

○単元名 : Unit 5 Universal Design		
○単元目標 : ①ユニバーサルデザインについての文章を読み、概要や要点を理解することができる。 ②自分の周りのユニバーサルデザインやバリアを意識し、"Please tell us what you think about universal designs or barriers around you."という課題に対し、学習した表現を積極的に使ったり、自分の言葉で言い換えたり、理由を付け加えたりしながら、発表とやり取りをすることができる。		
○場面設定 : ALTに自分の身の回りの universal design やバリアについて紹介する。		
○新出言語材料 : 接続詞 (if / that / when / because)		
○単元計画		
各時の目標	主な言語活動	統合する領域
第1時	○ユニバーサルデザインの利点について聞きとったり読みとったりすることができる。 導入/Starting Outの本文概要把握 パラフレーズ練習/新出語句推測・導入 音読練習	listening→speaking
第2時	○ある条件で何を答えるかを述べる ○光太に起こった出来事について読み取ることができる ifを用いた表現活動 Dialogの本文要点→詳細把握 新出語句推測・導入	listening→reading reading→speaking
第3時	○自分の考えを述べる think (that) ~ / know (that) を用いた表現活動 パラフレーズ練習/音読練習	reading→speaking
第11時	○聞き手からのアドバイスを参考によりよいプレゼンテーションをめざして工夫できる ○発表者にアドバイスできる 音読練習 プレゼンテーション練習	listening→writing
第12時	○身の周りのユニバーサルデザインやバリアについて自分の考えを理由をつけながら述べる パフォーマンス評価(ポスターセッション)	listening→speaking
第13時	○発表内容をまとめることができる エッセイライティング 振り返り(自己評価)	reading→speaking →writing

図4 Unit 5 単元計画

図4はUnit 5の単元計画の一部である。効果的な言語活動を行うためには、逆引き設計による単元構想が大事である。そこで、CAN-DOリストに基づいた目標より、“Please tell us what you think about universal designs or barriers around you.”をパフォーマンス課題として設定した。目標達成に向けて必要な言語材料を学び、課題解決に必要なとさ

れるそれぞれの言語活動にどんな目的があるのかを指導者と生徒が共有し、それらの言語活動をスモールステップで進めることで、単元を通して目標達成に向かう目的意識が継続されると考え、実践した。

第2節 それぞれの言語活動と学びの可視化

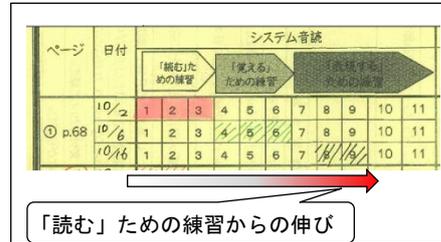


図5 伸びを把握できるシステム音読練習シート

図5に示すシステム音読練習のワークシートのように、それぞれの言語活動に

おいて生徒が学びを可視化できるような工夫を加えた。これにより、生徒たちは自分のレベルに合わせて学習方法を選択したり、レベルアップを目指しさらに負荷をかけたりしながら主体的に学びへ向かう姿を見せた。

第3節 パフォーマンス課題と評価

本実践のパフォーマンステストは、二人で発表するポスターセッション形式で行った。生徒たちは他のペアに向けて事前発表をし、聞き手からの評価を受けて改善した上で再度発表内容を吟味し、本番に臨んだ。発表後の自己評価や振り返りからは、事前の相互評価を参考にし、よりよい発表を目指してさらに工夫を加えた様子が伺えた。

第4章 実践研究の成果と今後の課題

第1節 研究の成果について

実践後のアンケート結果より、80%の生徒がポスターセッションに向けて音読練習などに授業時間以外にも主体的に取り組んだことがわかった。また、授業中の様々な言語活動が発表につながったと実感している生徒が95%にのぼり、最後のパフォーマンスに向けて見通しをもって活動に取り組めた様子が伺えた。

第2節 今後の課題について

パフォーマンステストでは、読んで理解したことをもとに表現を選択し、発表につなげる領域統合に関しては一定の成果が見られた。しかし、伝え合う段階でのやり取りにおいて、聞いて理解した内容について質問する等の充実への手立てが必要がある。

また、指導者が様々な話題について生徒とインタラクティブしたり、臨機応変にパラフレーズしたりする姿を見せることが、生徒たちに豊富な英語を聞かせ、彼ら自身の言葉で自然に英語でのコミュニケーションに向かわせるためには必要であると考え